



シリーズ 親の意識を変えてみよう②

「がんばれ」より「がんばっているね」



宿題でむずかしい問題を考える子。でも、持っている力を出し切ろうとしています。そのときの一言は？

やる気のないとき「頑張れ」を「今はまだ頑張っていない」と受け取ることがあります。

親御さんも家庭や職場で頑張っています。その時「頑張れ」と言われると「充分やるよ」と思うのではないのでしょうか。子どもも同じです。「頑張ってるね」で、子どもはうれしくて気持ちが満たされ、更に頑張りたいという気持ちになれます。

人間は、「頑張ってるね」と言われると、今の自分を肯定し、「もっとできるはずだ。もっと頑張りたい」というエネルギーが自然にわいてきます。とりあえず褒めましょう。○「字が上手くなってきたね」

○「片づけが上手くなってきたね」

○「優しいお兄ちゃんだね」

褒められる事実がなくても目立った変化がなくても、とりあえず褒めることが大切です。

「ほめるから、できる」



小学1、2年生までなら、「そうなんだ」と感じてその気になります。3、4年生になると、「え、そうかな？」と少し疑いますが、繰り返し言っているうちに「そうかもしれない」と思うようになります。5年生以上では、さすがに「やらせたいから言っているんでしょ」と親の下心がバレてしましますが、バレてもいいのです。親の思いは伝わります。

「できたらほめる」と親は思いがちですが、これでは永久に褒められません。逆です。「ほめるから、できる」ようになるのです。でも、やり過ぎには注意しましょう。

(次回: betterな褒め方)



お母さんやお父さんと話すことは、子どもにとって大切な時間。そのときに・・・。

ありがとうございました

わが家の「にこにこ」日記

たくさんのご応募、ありがとうございました。入賞作品発表を楽しみにお待ちしております。

三行詩入賞作品から

「がんばってね」より
「がんばったね」が、うれしいよ。
鹿児島市荒田小学校
3年 駒走翔大さん

『こたつにみかん』

一家に一台だったテレビも一部屋に一台の住宅環境の変化もあり、こたつが減少…。今年の冬は一度スマートフォンを手から離し、みかんを食べながら家族団らんを楽しんでみてはいかがでしょうか？【おいしいみかんの見分け方】

- へたの切り口が小さく、皮の色が濃く張りがある。
 - 形が扁平で、皮のツブツブが小さく重みがある。
- ◎みかんのビタミンC、実を包む袋や白い筋にはハスペリジン（血管を強くする栄養）があります。

